## 職業実践専門課程の基本情報について

学	校名	7	設置認可能	年月日	校	長名			所	在		地
日本分析	化学専門	学校	昭和57年4	月1日	重里(	徳太	=	530-00	43 大阪	<b>反市北区</b>	天満	2丁目1番8号
									(電話	) 06-63	53-0	)347
設	置者名	, 1	設立認可能	年月日	代表	者名			所	在		地
学校法人	重里学園		昭和57年3	月31日	重里	國麿	=	530-00	43 大阪	<b>反市北区</b>	天満	2丁目1番8号
									(電話	) 06–63	53-0	)347
目的	の育成を	目的。	とする。4年制	の長期	間を活か	し、2年	制の	)生命バ	イオ分	析学科は	および	技術を有する人材 び有機テクノロジ 印識と技術を修得
	する。 さ	らに、		術だけ	でなく、	理系の高						と言われる実社会
分野	課程名	3	学科名		美年限 夜別)	全課程 必要な 数又は	総技	受業時	専門	士の付与	<del>-</del>	高度専門士の付与
工業	医療かり 高度分析 科		4年(昼)		O単位時間 は209単 位)		_			2年文部 告示第3	, ,	医療からだ高度分 析学科
			講義	演	習	3	実験	i		実習		実技
教育	課程	1 9	9 5 0単位時間 (1 3 0単位)	()	単位時間 又は単位)			単位時間 9 単位)		単位8 (又は単化		単位時間 (又は単位)
生徒	総定員		生徒実員		専任	教員数		兼	任教員	数		総教員数
	16	0人	;	26人		2	2人			1人		3人
学期制	度		<b> 前期</b> :4月1╒ <b> 後期</b> :10月1				成績	評価		成績表( 成績評価		無) 基準・方法について
									果等	、学習意欲	や取	式験、並びに実習の成なり組み等の履修状況 をして、学科担当講師
長期休	<del></del>		夏 季:8月	21日から 1日から9 ] 21日から	月10日	2	卒業	* 進級	験の業	・実習科 目 単位を取行 日数及び行	目ごと 导した 各講	おいて、講義科目、実 とに規定された以上 と上で、出席すべき授 義科目時数のそれぞ 出席していること。

生徒指導	■クラス担任制 (を)・無)	課外活動	■課外活動の種類
	■長期欠席者への指導等の対応 まずは長期欠席者を出さないために、無連絡 欠席があった場合には、その日中に必ず担任 から連絡を取り、欠席の理由を確認し、学校 と保護者と連携して学生の出席を促してい る。さらに、担任が直接ご家庭(一人暮らし の学生については下宿先)へ出向き、学生の 気持ちを汲み取りながらも、彼らの気持ちが 登校につながるような指導を行っている。		献血ボランティア、環境活動、各種実験会の参加等、積極的に奨励している。 ■サークル活動 (右・無) 野球、テニス、サッカー、バスケットボール、環境委員会、図書委員会
就職等の状況	■主な就職先、業界等	主な資格・検定	毒物劇物取扱責任者、化粧品製造業責
	環境、電子・電機、金属材料、繊維、医薬品、化粧品、食品、バイオ、医療、臨床など、あらゆる分野の研究、品質検査、品質管理、製造などで分析化学者として従事します。 ■就職率*1 83.3% ■卒業者に占める就職者の割合*2 71.4% ■その他(任意) 上記以外に進学率 100% (平成25年度卒業者に関する平成26年5月時点の情報)		任技術者、化粧品総括製造販売責任者 (以上、卒業時全員無試験取得)、環境計量士、公害防止管理者、危険物取 扱者、放射線取扱主任者、中級バイオ 技術者認定試験、上級バイオ技術者認 定試験、工業英語能力検定、ビジネス 能力検定 ほか
中途退学の現状	■ <b>中途退学者 2名</b> ■中退率 8.09 平成25年4月 1日在学者 25名(平成25年		
	平成25年4月 1日任子省 23名(平成25年 平成26年3月31日在学者 23名(平成26年 中途退学の主な理由 経済状況の悪化、進路変更 ■中退防止のための取組 上記の「長期欠席者への指導等の対応」に対して、一パーと口頭にて報告することで学生の様々な問題事象があれば、他の専任教員からの付任せるのではなく、専任教員全体としてそのグループウエアの導入を図り、様々な手段で	F3月卒業生を含む) 加え、定例打合会を行っな情報の共有を図った。 青報もここで集約された。 で問題解決に取り組	っている。また、退学につながるよう れ、解決すべき問題があれば、担任に んでいる。また、学生間、学校間での

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

URL:http://www.bunseki.ac.jp/

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の 進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。
- ※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。
- ※2「学校基本調査」の定義による。

ホームページ

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な 仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

## 授業科目等の概要

	<u>↓</u> 果		引課程 医療刀	らだ高度分析学科) 平成25年度				椒	業方	et.	+12	所	教	8	
Š	選	自由選	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講	演習	実験・実習	校	校外	専	兼	企業等との連携
0			基礎化学	分析化学を学ぶに当たり、高校レベルから 復習して、化学の基礎部分を修得すること を目的とする。具体的な内容は以下の通 り。 1. 濃度計算 2. SI単位 3. 物質の構 造粒子と物質量 4. 化学結合(種類の理解) 5. 物質の状態変化 6. 溶液 解) 5. 物質の状態変化 6. 溶液 7. 化学反応と熱 8. 反応速度と化学 衡 9. 酸と塩基とその反応 10. 似 化・還元反応 11. 企業で使用されてい る試薬の名称	1	90	6	0			0		0	-68	
0			基礎数学	計算力の修得、化学分析を行った後のデータ処理に必要な各種基礎的な関数の理解を 深めることを目的とする。またデータを図 示化するための処理を学ぶ。 1. 一次関数 2. 指数関数 3. 対数関 数	1 前	30	2	0			0		0		
0	4-0		安全衛生	化学実験を行うにあたり、使用試薬・使用機器などの危険性に関する知識は不可欠である。本講義では、実験において何に注意すべきかを講義し、「危険物取扱者」の資格取得に必要な知識の修得を目的とする。 1. 安全衛生概論 2. 物質の燃焼と消火の方法 3. 消防法の概要 4. 危険物の性質	1 前	30	2	0	8-6		0		0		3
0			生活化学	私達の毎日は、実は「化学実験」の連続である。本講では、普段の生活の中からのを実験」的な現象をいくつか拾い、そをのでででではない。この講義を主じて、不足しがかるなり、「化学の本質」にはいるとしての基礎」を築く。 1. 有機化学と無機化学 2. 金属 3. 電池の化学 4. 触媒 5. 水 6. エネルギーと化学 7. 洗濯の化学 8. 視覚と色素 9. 味 10. 栄養とアミノ酸、DNA 11. 現代化学の話題	1 前	30	2	0			0			0	
0	9 6		定性分析法	金属イオンの系統的常量定性分析について 講義し、第1族〜第6族までの分離分析法 に利用される理論修得を目的とする。定性 分析実験の化学反応を正しく理解し、溶解 度積や、共通イオン効果などの基本的な知 識を修得する。	1前	30	2	0	3		0		0		

Г	Г													
0		分析化学	分析化学の基礎的全分 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一次	1 通	60	4	0	Δ	Δ	0	0	0	0	0
0		機器分析化学	分光分析法、クロマトグラフィーなどについて理解を深め、実際の実験を行うための 基礎力を養うことを目的とする。汎用機器 の測定原理・構造・試料の前処理・データ 解析法等について理解を促すと共に、機器 分析が比較分析であることを理解させる。	1 通	60	4	0			0		0		
0		ビジネス実務 I	分析化学の が入ていた。 で学生はそのの を学生はそのの を受けるできた。 ででは、 をできたいでは、 をできたいでは、 をできたいでは、 をできたいでは、 をできたいでは、 をできたいでは、 をできたいでは、 をできたが、 できたが、 でが、 できたが、 でが、 でが、 でが、 でが、 でが、 でが、 でがが、 でがが、 でが、 で	1 通	60	4	0	△	Δ	0	0	0	0	0
0		工業英語 (化 学)	科学技術と大大学を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	1 通	60	4	0			0		0		

			物理における項目の中で、理系学生の就職											
0		基礎物理	採用試験に出題される内容ならびに分析化学者として使用する分析機器の電気回路の基礎的内容を理解する。 1. 速度と加速度 2. 等速直線運動3. 落下運動 4. 運動の法則(第1~第3) 5. 電気と電気抵抗 6. 電流と磁気など	1後	30	2	0			0		0		
0		有機化学	有機化学の中で基礎となる有機化合物の決定を を学んだ後、有機となる有物の・一で基礎を を学んだ後、有機質、の一種類となるを を主意を を主意を を主意を を主意を を主意を を主意を を主意を を主意を を主きを をはままた。 をはまた。 をはまたる。 をなる。 をなるる。 をなる。 をなる。 をなる。 をなる。 をなる。 をなる。 をなる。 をなる。 をなる。 をなる。 をなる。	1後	60	4	0	Δ	Δ	0	0	0	0	0
0		無機化学	「基礎化学」で学んだことを基礎として、無機化学に関する各論を講義する。はじめに原子の電子構造と電子配置、周期性などについて学び、その知識を利用して典型元素や遷移元素についての各論を学ぶ。 1.原子の構造と電子配置 2.化学結合3.1族・2族元素 4.12族~18族元素5.遷移元素	1後	30	2	0			0		0		
0		生物化学	生物を構成している物質の性質とその役割 について解説していく。特に、糖質、脂 質、タンパク質を中心に基礎から講義を行 う。なお、本講義はバイオ技術者認定試験 対策も目的とする。	1	30	2	0			0		0		
0		定量分析法	化学分析の基本操作である重量分析・容量 分析について、実験で得られたデータの取 扱いや、測定値から分析目的成分の量・濃 度を算出するための計算演習を主に行う。 1. 重量分析:鉄の定量 2. 容量分析: 沈殿滴定、中和滴定、酸化還元滴定、キ レート滴定など	1後	30	2	0			0		0		
0		データ解析法	客観的なデータ処理方法を修得するため、 記述統計と推測統計に関する基礎的知識を 学習する。 1.代表値、散布度 2.確率分布(正規 分布, t分布) 3.区間推定 4.仮説検 定 など	1 後	30	2	0			0		0		

0		基礎化学実験	化学実験に必要な容量計・器具・天秤等の取り扱いや基本操作について、データの表を表して、正しい測定方法・デー規定を扱った(誤差、未知濃度、モル濃度・規定を修得の表を理解し、報告書の作成方法を修得できる。また、ゴミ処理等ができる。実験ででき、当りにできる。 1. 安全教育 2. 器具の取りクロールのな技術の修得を目的とする。 1. 安全教育 2. 器具の取りクロークのな技術の修得を開展している。 1. マールのなどを表している。 1. マールのなどを表している。 2. 基礎実験手ができる。 7. 基礎実験手ができる。 7. 基礎実験手法の確認テスト	1 前	90	3		0	0		0		
0		定性分析実験	金属イオンの系統的定性分析を行う。第1 族〜第6族までの分離分析法について、理 論および実技の修得を目的とする。これら の定性分析実験を通し、化学反応を正しく 理解する。 技能検定(化学分析)の試験の際にも、 定性の試験が課題として課せられているた め、この実験中においても未知試料の第3族 の実技試験を行う(ただし、第1族〜第3族 まで)。	1 前	90	3		0	0		0	0	
0		機器分析化学 実験	現在、公司、   現在、   、   、   、   、   、   、   、   、   、	1後	90	3	4	0	0	0	0	0	0
0		定量分析実験	化学分析の基本操作である重量分析・容量 分析の実験方法について、理論と実践に 沿った精度の高い技術を修得する。化学分析 (技能検定)の試験の際にも、定量分析 の試験が課題として課せられており、この 実験中においても未知試料の定量の実技試験を行う。 1. 重量分析:鉄の定量 2. 容量分析: 中和滴定、酸化還元滴定、キレート滴定 3. 実技試験	1 後	90	3		0	0		0	0	

0		品質管理	本講義の目的は科学的な品質管理の基となっている統計的品質管理の基本的考え方を理解できるようになる事である。現在多くの企業において品質管理の基本を理解している人材は不足してお財職にも有利である。品質管理に伴う基礎的な考え方から、具体的な計算や道具(グラフ)の使い方を学び、品質管理検定3級の試験対策も目的としている。	2 前	30	2	0		0	0		
0		化学関係法規	本校卒業と同時に取得可能な国家資格「毒物劇物取扱責任者」を規定する毒物劇物取 締法について、その法の体系や化学物質の 毒性及び試験方法、毒物・劇物の取扱い方 と事故時の対応などについて理解を深め、 毒物劇物取扱責任者に必要とされる知識を 修得する。	2 前	30	2	0		0		0	
0		機器分析化学 II	機器分析化学 I での学習を基に、分析の根幹をなす下記の分析機器について概要、原理、応用を理解する。 1. 核磁気共鳴分析 2. 質量分析 (MS) 3. 蛍光 X線分析 (XRF) 4. X線回折測定 (XRD) 5. 電子顕微鏡 (EM)	2 前	30	2	0		0		0	
0		食品化学	本講義では、食品に含まれる代表的な栄養 素のは、食品に含まれる代表的な栄養 素の成分分析方法について解説して解説の 分析方法にして解説のとせて を目がいる。また、食品の保健用食品、 (食品の出生ででは、 (食品の出生ででは、 (では、)の一般が (では、)の一般が (では、)の分析 (では、)の一般がの分析 (では、)の一般がの分析 (では、)の一般がの分析 (では、)の一般がの分析 (では、)の一般がの分析 (では、)の一般がの分析 (では、)の一般がの分析 (では、)の一般がの分析 (では、)の一般がの分析 (では、)の一般がの分析 (では、)の一般がの分析 (では、)の一般がの分析 (では、)の一般がののか。)の一般がののかが、(では、)の一般がのの分析 (では、)の一般がののかが、(では、)の一般がののかが、(では、)の一般がののかが、(では、)の一般がののかが、(では、)の一般がののかが、(では、)の一般がののかが、(では、)の一般が、(で		30	2	0		0	0		
0		微生物学	微生物(細菌・カビ・酵母)の知識は食に を要素がいる。このでは、 を変われる。このでは、 を変われる。このでは、 である。では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、		30	2	0		0	0		

0		分子生物学	分子生物学の基礎的知識を習得し、生命現象を分子レベルで理解できるようになる。とを本講義の主要な目的としている。また、本講義はバイオ技術認定試験対策も目的としている。テクニカルターム(専門等)の習得も目的とする。 1. DNA・RNAの構造 2. DNAの複製 3. RNAの転写とプロセッシング 4. タンパク質の合成(翻訳) 5. オペロンの転写調節 6. DNAの損傷と修復 7. 免疫応答		30	2	0		0	0		
0		かおり科学	私たちの身の回りは様々な「かおり」であいれている。しかし、人によって感じいいり、分析機器ではたりと、そのできないである。分析には、と、その手法を確立した、のの手法を確立したがあった。と、そのの手法を確立したがある。ここを基本に解説で機器に見いたがは、といる。というでは、ないののでは、ないののでは、ないののでは、というでは、ないのでは、というでは、ないののでは、というでは、ないののでは、というでは、ないののでは、というでは、ないののでは、ないのは、ないのでは、ないないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのではないのでは、ないのではないのではないのではないのではないのではないのではない。ないではないのではないのではないのではないのではないのではないではないのではないの	2 前	30	2	0		0	0		
0		バイオテクノ ロジー総論	現在、人類が解決すべき課題として地球環境問題があげられる。本講義では、環境問題の現状およびその解決方法として生物を利用した環境修復であるバイオレメディーションおよびファイトレメディエーションに重点を置き解説を行う。加えてバイオマス燃料や工業製品のための循環型・活境調和型の原材料として植物の利用・活用について解説を行う。本講義はバイオ技術者認定試験対策も目的とする。	2 前	30	2	0		0	0		
0		化学分析法	分析化学実務の基礎となる概念を中心に、 分析法の原理、特徴、操作法、応用例など を解説する。以下の項目について、例題や 演習問題を通じて修得する。		60	4	0		0		0	
0		公定分析法	国内外の規格について、その制定目的や内容を習得し、分析方法の規格を読み解く力をつける。また、制定・改廃される法律とそれに用いられている分析方法を勉強して、今後の実務での活かし方について学ぶ。 1. 公定分析法とは、標準化、規格とは2. 日本工業規格(JIS)、水質、環境、材料関係3. 日本農林規格(JAS)、食品関係4. 日本薬局方、医薬品関係5. 国際規格、ISO、Codexなど	2後	30	2	0		0		0	

_	_	_			_				 			
0			酵素工学	この講義では、酵素の基礎から、生体内の酵素の持つ効率的な触媒作用や高い基質特異性などの特徴と、酵素の応用例につい策が、なお、バイオ技術者認定試験対策目的とし、テクニカルターム(専門英語)の習得素の分類と命名 2. 酵素の構造 3. 酵素の触媒活性と基質特異性 4. 酵素の利用など		30	2	0	c	)	0	
0			遺伝子工学	2 1世紀の人間の生活を大きく変革していく、遺伝子工学の技術について理解するために、基本的なバイオ技術の原理とる。また、さらにその応用例についで講義すりをしている。また、本講義はバイオ技術認定試験対専門英語のとの習得も目的とする。 1. 遺伝子工学の基礎知識 2. 核酸の単離 3. 遺伝子の単離 3. 遺伝子の増幅 5. 遺伝子の構造解析(塩基配列決定) 7. 細胞への遺伝子導入 など		30	2	0	c	))	0	
0			臨床検査法	臨床検査は人の健康状態に関する物質的情報を得る事を主な目的としており、分析化学と関連の深い分野である。特に臨床とないるがではバイオ系分析化学の重要な一分野とないる。また、試料は人体要求されることがある。がイナと化学の技術を開発する余地が多い。がイナと化学の技術を開発する余地があたが、大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	2後	30	2	0	c	)	0	
0			パイオ実験法	私たちの生活を支えるバイオ技術の基本 な原生・方法やその応用例をできるが な原また、バイオ実験にでは をしてをしまれる。 も講義する。 1. 細胞合 3. 知りのバイオテクノロジー 6. 植物のバイオテクノロジー 6. 植物のバイオテクノロジー 6. 植物のバイオテクノロジー 6. 植物のバイオテクノロジー 7. バイオテクノロジーの医療への応用	2後	30	2	0	c	))	0	

0		医薬・化粧品 概論	医薬品および化粧品業界の現状を理解し、 企業で仕事をする上で必要な知識や情報を 集方法を理解する。また、関連することを 度(流通・販売)を同時に理解することを 目、医薬品とは 2. 医薬品企業と周辺 3. 医薬品の研究・開発 4. 生薬品のは 5. 化粧品とは 7. 化粧品業界	l	30	2	0		0		0	
0		医療・機能高 分子	医療高分子及び機能性高分子といわれる材料分野について先端の内容を学ぶ。また、 その中でも生体適合性の高いとされている 高分子ゲルを用いた内容について重点的に 行っていく。	2後	30	2	0		0	0		
0		植物・生物代 謝学	生物は外から栄養源を摂取し、生体内で分解して、生体内で分解していまた生体構成分子に構成分子に構成分子と構成分子と性のものである。これでは、動物・植物のこのようなのでは、動物・植物のこのような代謝全般について解説をする。また、バイオ技術者認定試験対策も目的とし、テクニカルターム(専門英語)の習得も行う。	2後	30	2	0		0	0		
0		人間力育成実 習	現在の自分に足りない箇所を見つけ、それ を改善するためにはどうすれば良いのか自 ら考え、計画し、取り組んでいく中で、人 間力の強化を行う。また、本講座は就職活 動に関する指導も行う。 必須	2 通	60	2		0	0	0		
0		バイオ化学実 験	バイオテクノロジーに必要な技術の習得を目的として、次の項目について実験を行う。また、本実験はバイオ技術者認定試験対策も目的とする。 1. 微生物学実験(基本培養操作・観察、抗菌性試験、大腸菌増殖曲線作成、資化性試験) 2. 酵素実験(血清中のアルカリフォスファターゼ) 3. 核酸実験(DNAの抽出、PCR法・電気泳動) 4. タンパク質実験(タンパク質の分離・電気泳動)など	2 前	120	4		0	0	0		

_	_	_			_				_					
0			食品分析化学 実験	食品分析に必要な技術の習得を目的として、次の項目について化学分析・機器分析実験を行う。 1. 三大栄養素の分析(還元糖の定量) 2. 無機質の分析(1) (カルシウムの定量) 3. 無機質の分析(2) (リンの定量) 4. 酸化防止剤の定量(ビタミンCの定量) 5. 防腐剤の定量(亜硫酸塩の定量) 6. 水質分析(CODの測定) 7. ビタミンB2の定量 8. 有機酸の定量 など	2前	120	4			0	0	0		
0			課題研究	各実験で得た知識および技能の総まとめ実験。これまでの実験で進めてきたが、卒までの実験を進めてきたが、卒までのように実験を進めていくかについてはいまいを行う。 卒業研究発表会要旨および卒業論文の提出、卒業研究発表会の内容を審査の上、単位を認定する。将来企業においなトレーニ実験が進められるように実践的なトレーニングを行う。	2後	240	8			0	0	0		
0			生理学	生理学は、「心臓がドキドキする」「食べいる」「など、「心臓が「痛みを感なしている」「などしない。 などのないなど、 はないなどのないのないのないのないのないのないのないのないのないのでは、 はないのないのでは、 はないのないのでは、 はないのでは、 はないのではないのでは、 はないのではないのでは、 はないのではないのでは、 はないのでは、 はないのではないのではないのではないのではないのではないのではないのではないので	3 前	30	2	0			0	0		
0			製薬学	医薬品は、人が病気を克服し健康な生活を 送るを示すない、すば出出まない。 対を示す医に使用を を受けれる。 を実常にしてなる。 ではない。 できるまで といる。 できるまで といる。 できるまで といる。 できるまで といる。 できるまで といる。 できるまで といる。 できるまで といる。 できるまで といる。 できるまで といる。 できるまで といる。 できるまで といる。 できるまで といる。 できるまで といる。 できるまで といる。 できるまで といる。 できるまで といる。 できるまで といる。 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、	3	30	2	0			0		0	

_															
0			高分子化学	金属、セラミックス等と比較しながら、合成高分子の構造や特性、合成法などについて講義する。 具体的には以下のとおり。 1. 材料物質の特性 2. 高分子の特性 3. 高性能高分子材料 4. 機能性高分子材料		30	2	0			0			0	
0			有機化学特論	1年次で学習した有機化学を基礎としてより実用的な有機化学についての知識を理解する。		60	4	0			0		0		
0			有機化学実務	有機化学の実験操作、器具は日々進化を続けている。また、その研究成果は、論文として公開される。この科目では、有機化学実験に特に重要となる実験操作・器具を紹介し、実際の論文をじっくり読むことで論文の構造と読み方を学ぶ。また論文を読む上で知っておくべき点や化学情報の検索方法について解説する。	3前	30	2	0			0		0		
0			医薬情報演習	製薬企業でニーズのある医薬情報担当ため、 (Medical Representatives) にあると 薬でニーズのある医薬情報とした。 薬でニーズのある医療ではなる。 、MR認定の取得が必要であるとのである。 製薬認定の取得が必要である。 、本のとは、 、ないないでは、 、ないないないでは、 、ないないないでは、 、ないないないないでは、 、ないないないないでは、 、ないないないないないないないないないでは、 、ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	3 通	60	4		0		0		0		
0			ビジネス実務 II	分析化学の技術は、それそのものが企業えるのものが企業えるのものが企業を表現した。「見たないには少ないとないとのでは、いいのでは、ないのでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	3 通	60	4	0	4	Δ	0	0	0	0	0
$\overline{}$	•	_			_		_	-	_	_	-	$\overline{}$	$\overline{}$	-	$\overline{}$

											_
0		物理化学	反応熱の温度や圧力との関係、化学平衡、 気体や溶液の性質を通じて、様々な物理的 現象のエネルギー変化について理解する。 化学反応や物質の状態によるエネルギー変 化に着目し、それを数値化して定量的に把 握する能力を身につける。	3 通	60	4	0	0		0	
0		薬理学	現在、医療用医薬品の成分数は2,000以上、 商品数は1万6,000種以上存在する。植物から薬の基になる成分を抽出する事から始まった「薬」について総合的に解説を行い、実際に用いられている薬を紹介しながら人の生命や健康についての理解を深めることを目的とする。	3 後	30	2	0	0	0		
0		病理学	病理学は19世紀に発明された顕微鏡によって、まず組織病理学が発達し、現在では遺伝子や様々な分子生物学的手法で疾患の研究が行われている。本講義では、単に疾患名や病気の分類を憶えるのではなく、疾患の原因や成り立ちについて総合的に学び、医学・医療についての理解を深めることを目的とする。	3後	30	2	0	0	0		
0		構造生物学	タンパク質はどのような「かたち」で機能をもつのか。期待される機能を得るために知っておくべきことは何か。「かたち」を理解するための方法には何があり、どう使われているのかを学ぶ。 1. タンパク質構造の基礎 2. タンパク質構造の物理化学 など	,	30	2	0	0	0		
0		工業化学	私達の生活や人が生活する上で欠くことのできない工業製品。特に化学工業製品の用途 造に関する原材料、化学反応や製品の用途 について講義し、化学製品の製造技術を体 系的に理解することを目的とする。 1.酸・アルカリの製造 2.石油化学 3.汎用性・機能性高分子 4.有機ファインケミカルズ		30	2	0	0	0		
0		有機合成化学	「有機合成」は薬や合成繊維、プラスたのでは薬的に支援を含まれた。 では、大変をなるでは、大変をなるでは、大変をなる、では、大変をなる。一般のでは、大変をなる。一般のでは、大変をは、大変をは、大変をは、大変をは、大変をは、大変をは、大変をは、大変を	3	30	2	0	0	0		

0		有機構造解析 I	今日に至るまで、化合物の構造を解析する ためにいろいろな分析方法が開発されて析 た。この科目では、これまでの機器分析外 学で学んだMS(質量分析法)、IR(赤外外 光法)を用いた有機化合物の構造解析の 形MRについては、有機構造解析 II で学ぶ。 1. MS(質量分析法) 2. IR(赤外分光法) 3. 13C NMR(核磁気共鳴分光法)化学シフト 4. 二次元NMR 5. その他核種のNMRについて	3後	30	2	0		0	0		
0		有機構造解析Ⅲ	今日に至るまで、化合物の構造を解析する ためにいろいろな分析方法が開発されて た。この科目では、有機化合物の構造気 において中心的役割を果たすNMR(核磁気共 鳴分光法)について実際のNMRスペクトルす られてもるとができるようにする。 る。ペクトルと組み合わせて、有機化合物 の構造を決定できるようにする。 1. NMRの原理とその活用法 2. 1Hの化学シフト 3. 1H NMRスペクトル解析 4. 有機物質の構造解析	3後	30	2	0		0		0	
0		機能性有機工 学実験	機能性有機材料を合成する上で必要な知識を身に付ける。種々の実験法を習得する。 1. 酢酸エチルの合成・精製 2. ジベンザルアセトンの合成 3. 発泡プラスチックの合成 4. 合成繊維・再生繊維の合成と確認 5. オレンジ II の合成 6. ルミノール誘導体の合成と化学発光 7. 熱応答性触媒の開発	3前	120	4		0	0	0		
0		医薬・食品成 分実験	有機化学実験に用いる基礎的な操作方法、 器具の扱い方を学習し、各種物質の抽出や 医薬品・食品成分の分析方法を習得する。 1. ホウレン草の成分分析 2. カフェインの抽出 3. オイゲノールとリモネンの抽出 4. 4-メチルフェノキシ酢酸の合成 5. アセトアニリドの合成 6. トマトから抽出したリコピンと風邪薬 の成分分析 7. DDSの開発	3 前	120	4		0	0	0		
0		研究開発実習	何名かの専任講師を本実習の講師として迎え、就職活動および就職後にライバルとなる4年制大学の学生がどのように研究を行っているのかということについてその研究事例や実態を学ぶ。また、企業もしくは大学院における研究開発の現場で必要な事柄についても多方面から学ぶ。さらに、理系学生の弱点とされる英語力の強化も行う。	3症	30	1		0	0	0		

0		遺伝子操作実 験	生物の持つ遺伝子の機能を明らかにする遺伝子解析、遺伝子利用をするために不可欠な遺伝子組換えに必要とされる、基本的な分子生物学的手法について習得する。 1. 目的遺伝子の増幅 2. サブクローニング 3. プラスミドベクターを用いた遺伝子組み換え 4. 目的タンパク質の発現誘導・単離・確認など	3後	120	4			0	0	0		
0			医薬品分析および臨床検査に必要な分析技 術の習得を目的として、次の項目について 実験を行う。また、本実験は既習のバイオ 化学実験で学んだ事項をより深く掘り下げ る内容についても盛り込む。 1. アミノ酸の分析、タンパク質の分析 2. 医薬品分析(カフェイン、アセトアミ ノフェン) 3. HPLCのメンテナス及びトラブルシュー ティング 4. テスター電気化学 5. 電気回路、エレクトロニクス(トラン ジスタ、センサー) 6. 臨床検査(ALP、ACP) など	3後	120	4			0	0	0		
0		特許管理	発明などの知的生産物の保護と活用を目的 とした知的財産権の基本事項について習得 すると同時に、著作権、特許の帰属問題な ど最近注目を集めている問題をも考えるス キルを醸成する。	4 前	30	2	0			0		0	
0		医薬情報演習	製作はは、と定逸但得 製薬では、と定逸のでは、と定逸のの、このの、とのでは、 製薬では、 を主には、 をにいい、 を主には、 をい、まの、 をい、まの、 をい、まの、 をい、まの、との、との、との、との、との、との、との、との、との、との、との、との、との	4通	60	4		0		0	0		

0		プレゼンテー ション演習	2年次配当科目「人間力育成実習」を通して学んだ社会人に求められる人間力をより 具現化し、自分のものにしていくために は、発信力、表現力が求められる。 この科目では、そうしたアウトプットをより行うことによって、これまでに学んだよりに必要な素養を身に付ける最後の仕上のである。特に本校最高学年であっていまり自覚を持つためにも、後輩の前でレゼンテーションする機会も設ける。加えて、卒業研究Ⅰ・Ⅱの成果発表の場および就職指導の場としても活用する。	通	60	4		0		0		0		
0		文献購読	目的に応じて、的確な文献を取得し、活用するための、スキルの醸成を図る。様々な媒体を通して、読み、書き、話し、聞き、 理解するための基本的なスキルを習得する。	<b>4</b> 後	30	2	0			0			0	
0		卒業研究 I	各実験で得た知識はないで、 を実験で得たの実験を進れている。 で得での実験を進れてきまして、 を実験である。とのでは、できまでのでででででででででででででででででででででででででででででででででで	4 前	480	16		4	0	0	0	0	0	0

卒業要件及び履修方法	授業期間等					
(卒業要件) 4年修了時において、講義科目120単位、実験・実習科目79単位以上修得した上で、出席すべき授業日数及び各講義科目時数のそれぞれ3分の2以上出席している事。 (履修方法)	1 学年の学期区分	2期				
成績評価の上、合格となった教科目については、単位を付与し単位の認定とする。成績評価は以下の通り行い、100点を満点とし、50点以上を合格、49点以下を不合格とする。 ○成績評価について 本校で行われる試験、並びに実習の成果、学習意欲や取り組み等の履修状況等を総合的に勘案して、学科担当講師が行う。	1 学期の授業期間	15週				

## (留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。